

【慢心せずして】転生者が
星杯戦争に参加する
件【何が王か】

雑種犬

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

英雄王の力を貰ったテンプレ転生オリエントの話。

さあ、^{ゲーム}愉悦を始めよう。

目次

【慢心せずして】転生者が星杯戦争に参加 する件【何が王か】	1
第2話	6

【慢心せずして】転生者が星杯戦争に参加する件【何が王か】

自分はテンプレ転生チートオリ主だ。

テンプレ的に転生してチート貰ったオリ主だ。

トラックからの事故からの真つ白空間からの神登場からの謝罪からの特典からの落下だ。

つまりテンプレ転生チートオリ主ということだ。

これから無双したり聖杯を勝ち取ったり愉悦したりするはずだ。

繰り返すが、自分はテンプレ転生チートオリ主だ。

そのはずだ。多分きつと。なんか自信無くなってきた。

いや、そもそもチートとは一体何なのだろうか。

転生先にはエルフやドワーフや獣人や……まあ色んな種族が居ると聞いた。

そして実際、明らかに人間じゃない種族が居るのが見える。

自分は地面に立っているが、その上空ではロボット軍 v. s. 巨大ドラゴンの戦闘が

繰り広げられてる。

その風景を眺めながら思う。

——おかしい。明らかに何かがおかしい。

ロボット達は、マシンガンの如くビームを連射している。

その一発一発が約束された勝利の剣並の威力を持つ。

ドラゴンは、天地乖離す開闢の星に匹敵する規模の次元断層を常に身に纏っている。約束された勝利の剣並の攻撃でなければ次元断層に阻まれ無力化されてしまうだろう。

それどころか近付いただけで即死する気がする。近接攻撃が使い物にならない。

ついでにもう一つ付け加えよう。

ロボットもドラゴンも明らかに超光速で移動している。

特にロボットの方、なんかワープしてる気がする。

その戦いを見ている自分の心境がどんなものか、おわかりいただけるだろうか？

わからないかもしれないから、はつきり言っておこう。

——こわい！

暫く眺めているうちに、両者共にダメージが増してきた。

ロボットは残機が減ってきて、ドラゴンも鱗が剥がれたりしてる。

一番ダメージが多いのはロボットでもドラゴンでもなく地形だけだ。地図書き換わるぞこれ。

流れ弾が怖すぎる。もしチートが無ければ、ここまでの間に百回は死んだと思う。

ドラゴンが天高く昇り、頭上に直系数十キロメートルほどありそうな魔法陣を描く。

なんだこれ、人理でも焼却するつもりか？

魔法陣は周囲の空間から……いや、周囲の時間から魔力を収束させている。

え、なに、やっぱり人理焼却なのか？

……そしてドラゴンはどう見てもヤバい威力のブレスを吐いた。

「ヴィマーナ
輝船!!!」

全力で逃げた。

逃げるしかないだろ常識的に考えて。常識って何だっけ。

まあとりあえず逃げるしかなかった。

チートの一つ、思考と同じ速度で飛ぶ乗り物を使って超光速で地平線の彼方まで逃げた。

太陽よりずっと眩しい光が地上に灯った。

数分後、突風と轟音が、遠く離れた自分の所に到達した。

地平線より遠いのに、余波だけでヴィマーナが轟沈した。オワタ。

チートが無かったら自分も死んでた。

そこから更に数分経って、やっと光と音とその他諸々が収まってくる。目を開けると巨大なクレーターが出来てた。

巨大過ぎてドン引きした。直系千キロメートル超えてそう。

大陸の形が変わるどころか、むしろ星の形が変わるレベルだ。

月あたりから見下ろしても、余裕でクレーターを視認できると思う。

今のヤバイブレスは自爆攻撃だったらしくて、ドラゴンは死んだ。

視力もチートなので結構見える。

ロボット達はだいぶ減ったけどまだ結構残っている。

残存ロボットは編隊を組んでどっか飛んでいった。

結局自分はロボット達にも故ドラゴンにもアウトオブ眼中な扱いをされたいらしい。

おいこらてめえら無視しやがってくれてありがとうございますおかげで助かりました。

というかここどこだよ。地球じゃないぞ、ガチの異世界じゃねーか。

あと、大聖杯らしきものが見当たらないんだけど。

聖杯戦争は？さっきの自爆ブレスで大聖杯消し飛んでない？

そもそも転生するとき神様に何言われたっけ？

「敵を全て滅ぼし星杯を顕現させよ」とか言われた気がするんだけど？

よく考えたら星杯って言われた気がする。え？聖杯じゃなくて？何それ？

それに敵を全て滅ぼすって……もしかして敵は人間サーヴァントの英雄ではないのでは？

自分はテンプレ転生チートオリ主だ。

Fateの英雄王ギルガメッシュの全能力とかいうガチチートを貰った。

でも——でもな？

——でもな、これ踏み台以下の雑魚じゃね？

第2話

自分が最強だと思つてたら一般兵レベルだった件。

一般人レベルではなく一般兵レベルなので、上手くやれば勝てる可能性はあるはず。だと思いたいです、はい。

とりあえず拠点が必要だと思う。安全そうな場所を探そう。

宝具で周囲の危険度を調査します。真名解放します。

「全知なるや全能の星！」

あれ？ここらへん全域が危険地帯？なんでだ……？

……あ、駄目だこれ、ヤバい系の生物が近寄つてきてる！

さっきのドラゴンよりは弱いけど人外級の魔力量がこつちに来る！

輝船で飛行したときに捕捉されたのか？

めつちや速い！すぐ近くまで来てる！数秒で接敵する！

あ……これもう逃げられないな……迎撃するか……。

ゲイトオブパビロン
王の財宝解錠！鎧装着！自動防御宝具展開！

迎撃準備完了！さあ来い！

……と思つてたら、なんか思つてたのと違う感じのが来た。

親方、空から女の子が！みたいな。

一言で言うとな使だった。

背には白い羽、頭上には光輪。どう見ても天使だった。もちろん美少女。

その天使は飛べるので、自力で着地した。パズーできなかつた。

どうしよう。どうすればいいんだこれ。

求婚すればいいのか？求婚は気が早すぎるな。

駄目だ緊張し過ぎてまともな思考ができてない、これだからDTは！

まずはお付き合い？いやお友達から……違う、最初は挨拶だ。挨拶しないと。

「ドーモ、天使Ⅱサン！オリ主デス！」

……なんか今、変な事を言つてしまったような気がする。

あ、でも大丈夫っぽい。天使さんは笑顔で挨拶を返してくれt——

「はい？こんにちは死ねドーモデス。」

——ひいつ！挨拶しながら攻撃してきやがった！首！首狙つてきた！

自動防御宝具が一瞬で溶けた！咄嗟に展開した何かの盾の原典がギリギリ間に合っ

た！

「こんなん天使じゃねえ！誰だよ天使とか言い出した奴は！

「ありやー？なんで生きてるんです？」

素直に首を差し出ささないなんて、人間として何か根本的に間違つてませんか？」

首傾げ＋上目遣い！なんだこの絶大な威力は！

可愛すぎて生きるのが辛い！昇天しそう！この子やつぱり天使だった！

……あれ？今なんか恐ろしいこと言われたような気が。

いやそんなわけ無いよな。こんな純粹無垢な笑顔でそんな物騒なこと言うわけ無いよな。

「あー、つまり人間じゃないんですね。人間失格でしたかー。

いえ、最初からなんとなくそんな気はしてたんですよ。うんうん。

あ、じゃあ首につけるラベルにはなんて書いたら良いんでしょう？

ええとですなー、貴方は何様のつもりです？」

「え？あー、えーつと、アーチャー弓兵です？」

アーチャーって言つとけば良かったんだよな？

真名とか言うわけないし。慢心ダメ、ゼツタイ。

この可憐な天使に名前訊かれてクラス名しか教えないなんて罪悪感が……。

かといって正直に名乗ったりしたらどこから情報漏れるかわからないし。

壁に耳あり障子にメアリーとか、天知る地知るロビン知るとか、昔からよく言うもんな。

……あれ？アーチャーでよかったのか？よく考えたらキャスターとかかもしれないぞ。

いやそもそもクラスとかあるのか？聖杯じゃなくて星杯だから、聖杯戦争じゃないよな？

「弓兵種ですかー。新種ですね。えへへー、これは良い首です。」

それじゃあ、良い子ですからちよーつとだけ痛い我慢してくださいね。

一瞬で済みますからねー。」

はい！我慢します！良い子なのでめっちゃ我慢しまさ——

——あ、つぶねえ！首が！首が切り落とされるとこだった！盾間に合った！

なんでだ！こんな可愛い天使がなんで攻撃してくる!?

ヤンデレか？ヤンデレなのか!?!二次元だどご褒美だけどリアルではやめて！

冗談はさておき、実際意味わからんものだけど。なんか怒らせるようなことしたつけ？

「待て、話をしよう！」

「んー？お話ですか？ちよつと意味がわかりませんー。一体何のためにそんなことを

「？」

なんでそんな不思議そうなんだ。

「俺が生き延びるために決まってるだろ！」

「我儘言っちゃ駄目ですよ？早く首チヨキチヨキしちゃいましょうね。」

「やめろください！首より良いものやるから！」

なんでそんないいち可愛いんだよ、油断して死にそうになるからやめろよ！

というかなんで首狙うんだ！アスライール死告天使かよお前!?

「首より良いものです？何です？あ、でもそんなもの持ってませんよね？もしかして嘘です？」

悪い子にはお仕置きしてあげますから、首出しちゃってくださいねー。」

また首！首ってそんな価値あんの!?宝具より!?

「落ち着け。」

ゲートオブバビロン これをやろう。まずはこれを食べるんだ。」

王の財宝からカリーを出す。

カリーの原典である、本場のカリーだ。これこそまさに人類の至宝。今回は特別にス

プーンもお付けします。

これなら騎士王だろうが埋葬機関第七位だろうが墮とせるはずだし、多分天使もいけ

るんじゃないかな。知らんけど。

「なん……なんです!? この暴力的に鼻腔を刺激する苛烈な芳香!

あ……あ、あ、手が……手が勝手に……!?

駄目です! 駄目ですこんなこと!

……あー、お皿とスプーンで両手を塞がれてしまいました! なんとという卑劣な罠……

!

……あーん……ん! ーん! ー!

あ、あ、あ……こんな……駄目です、こんな、絶望と快楽に塗れた背徳的な味……!

あ……あー! 駄目ですー! お口の中が終龍討滅戦ですー! お口から崩哮漏れちゃい

ますー!

あー……ああああああああああああああああああああああああああああああ

!

天使が爆発した。いや、比喻とかではなくて。

なんか光輪が高速回転し始めたと思ったら、大量の魔力を収束してそのまま爆発し

た。

ドラゴンの自爆プレスよりはマシだけど、この爆発も十分に頭おかしい威力だと思

う。

怖いので言動がおかしくなった時点で即座に何百メートルか逃げてたけど、余裕で巻き込まれた。

盾はギリギリ間に合った。盾大活躍だなおい。でもこの盾もう壊れそう。

盾よ、お疲れ様、今までありがとう。

後に残ったのはキロメートル級のクレーター。そしてその中心に無傷で佇む天使。

……あれ？なんか……美少女天使が美少女天使にジョブチェンジしてる。

何が起こったんだよ。マジで。